

第4回まち・ひと・しごと戦略茶話会発言要旨

日 時	: 平成27年8月3日(月) 19:00~20:30
場 所	: 社会福祉センター
テーマ	: 雇用
参加者	: 11名(それぞれの分野で活躍している若手のかた)
市職員	: 6名

1. 話題提供

資料を基に話題提供

2. 意見交換

司会者：女性の人口増加につながることは何でしょうか。

参加者： 私は滋賀県に来て、まだ4ヶ月ですが、30年間全国各地、居所を8箇所移し、各地域のさまざまな取り組みについては、ある程度見てきました。その中で、定住者、移住増加が女性の人口増加につながるのかは、よく分かりません。

湖南市は製造業圏で、県内で一番大きな工業団地を持っていますし、県内は製造業に従事する人が多いです。しかし、全国で一番女性の人口が増加している福岡市では、製造業が最も少なく、第三次産業に従事する人が多いそうです。一般的に女性が働ける場があったり、女性が消費するような場が近くにないと、女性の定住に結び付かないのではないかと感じます。製造業の市でありながら女性を増やしていくのであれば、第三次産業に力を入れ、魅力のある施策を考えなければなりません。

司会者：女性が消費する第三次産業が必要ではないか、ということですね。

参加者：例えば、女性が多い都市と言えば、東京・大阪・名古屋ですが、それらは製造業圏ではありません。したがって製造業圏でありながら女性の人口を増やすということは、ハードルが高いです。女性が増えている特色は、女性の消費に結び付く、女性にとって魅力のあるまちでなければ、女性が集まってこないというのが一般的な傾向です。

私がここに来て最も驚いたのは、「日本でこんなにいい県があるのだな」ということです。

滋賀県は人口が少し減っているとのことですが、全国的には地方でありながら、

これだけの人口が維持できているというのは、他に例がないのではないかと思います。私はこれまで転勤で各県いろんな所に行きましたが、滋賀県はその中でも恵まれた、非常に良い県です。製造業にも力があって、県民一人当たりの所得は全国トップクラスです。観光資源もあり、経営力もあります。難点を1つ言うならば、あまり知られていない、PR不足であることが挙げられます。

京都や大津に近いにも関わらず、あまり知られていません。

参加者： 女性の中でも生産年齢ぐらゐの女性、子育てをする20～30歳代には、都市イメージがとても大切です。湖南省は物流と製造といった男性的なイメージが強いと思います。こにゃん市のような、まずは一貫した都市イメージを作ることが先決だと思います。それと、既存の製造・物流を否定する必要はなく、それを大事に育てながらも、女性が働きやすい産業の起業を支援するべきです。

例えば、コミュニティビジネスというのは、女性が最も活躍できる商売です。例を挙げると、ピアノ教室、ネイルサロン、古着屋、小さなベーカリーなど、小規模なビジネスになっていくような商売は結構あります。女性がお互いのソーシャルネットワークを使いながらも、井戸端会議で口伝いに商売を広げるのがうまいです。口コミほど強い情報ネットワークはありません。単にインターネットを見て来るだけよりも、はるかに強い集客力があります。そういう意味では、いろんなコミュニティビジネスを市内に作っていくべきです。

女性を知り、女性の感性を生かせる商売を支援し、かつ男性が中心である製造業・物流業は、雇用の受け皿としては大事です。ただ、都市イメージを片方だけに偏らせないで、女性らしさを前面に出せるような、「こにゃん市」でもいいのです。そういうところを出せるようなイベントをやって、お金をかけて、都市イメージ戦略を練ってから少しずつ起業の支援をしていく、雇用の受け皿を作っていく。

あとソーシャルビジネスですが、うちの研究所の統計では、3分の1以上が女性経営者とのことです。男性でも福祉介護をやる人はいますが、ソーシャルビジネスに関しては女性の担い手が段々増えています。というのも看護師の経験のあるかたが多いですから。女性は女性の気持ちが分かるので、そんな女性の経営者が女性を雇う。そのことによって女性の所得が保障され、仕事が保障され、生活の糧が支えられる。短時間シフトの仕事も増えます。子育て支援では、行政の支援とそういったソーシャルビジネスの支援を合わせて、子育てしやすい都市を目指す。こうやって、両立させていくことが大事だと思います。

私は長野県出身ですが、長野県には消滅する自治体が非常に多いと言われてます。私はここが13箇所目で、前は北海道の釧路市にいました。釧路は牛の数が人の数より多いです。そういう所よりもはるかに恵まれた滋賀県は、私が生

まれた信州・諏訪よりも大きな湖があり、京都・大阪のベッドタウンとして、特に南部地区は人口が増えています。このようないい土俵をいい土俵であるうちに生かすべきです。そして市に財政的な余裕があるうちに、どこにお金を掛けていくかということを考えながらやっていかなければ、後悔することになります。

いろんなイベントなど、いいものが皆さんの知恵で出ています。先日の話ですと、いろんなイベントが乱立し過ぎてしまって、もめてしまったようですが。例えば、猫の祭典であれば、お土産屋がありますが、その人たちが一緒にやる。全国から猫好きの人、集まってくださいと。そうやっているうちに、猫好きの人たちの中から湖南省に住みたいと思う女性が出てきてもいいはずですよ。

都市イメージを作り、少しずつ仕事を作り、人と産業の発展をしっかりと支えていくことが大事だと思います。

司会者： 湖南省の都市イメージはどういったものなのでしょうか。

参加者： こにゃん市がありますね。ああいうものでいいんですよ。「ネコを大切にすまち」みたいなものでいいのです。そうすると猫好きの人が集まってきましたし、女性はそういう人が多いでしょう。

司会者： イメージというのは一つではなく、いくつもあってもいいのですか。

参加者： いいのですが、ぼやけてはいけません。一貫するものが一つあった方がいいです。「〇〇のまち」というのが理想です。

参加者： 私は高校卒業後、工業団地で働いた後、今は農業をやっています。自分の周りで若い人が農業をやっているかと言えば、全くやっていません。TIK 農産さんで若い子は働いていますが、農業をする会社の中で働いている従業員という形です。私のように独立して一から農業をやっている人という人はあまりいません。

例えば、和歌山に研修へ行くと果物農家が多いのですが、2年間研修をした後に独立できるという環境があります。自分が経営者になれるということで、農業に興味を持つ人も出てきます。しかし、滋賀県の場合は独立しようにもなかなか独立できません。一から農業を始めようと思っても、土地もお金もない、環境が整っていません。でも私は、農業は地域の雇用の面では、最も身近なものだと思います。

また、湖南省は福祉事業所が多いので、うちでは事業所とコラボを組んで農業を手伝ってもらっています。そして収穫などの簡単な作業を福祉事業所の人に頼んだりしています。農業は、高校生ぐらいの子からおじいちゃん、おばあちゃん

んの世代でもやれる仕事です。中学生や高校生が職業体験をやっていますが、農業の職業体験はありません。さらに、湖南省では兼業農家が多く、農業と言えば家庭の仕事だと思われるようです。これでは若い子に農業は仕事であるというイメージを持ってもらえません。若い子に興味を持ってもらえる環境をつくれたら、と思います。

司会者： 農業への雇用は、これから将来的に増えると思います。

参加者： 増えてくると言ってもらえる割には、市役所に尋ねると、私の後には誰も就業していないと言います。湖南省には農業のイメージがありません。特産品として挙げられるのは下田ナスぐらいですが、下田ナスは周年的に採れるものではありません。あとは米ぐらいしかありません。

隣の甲賀市では、戦略的に甲賀野菜をブランド化していますが、湖南省は下田ナスと弥平とうがらしのイメージが強過ぎて、他の野菜が注目されていません。私はそれを変えたいです。

司会者： 別の茶話会でも、湖南省のブランドづくりが重要だという話題は出ていました。JAさん、その辺はいかがですか。

参加者： 私は3月まで水口の方で勤務していましたが、5年ぐらい農業に関わる仕事をしていて、その中で甲賀市のブランド野菜が、最初に企画立案したところから成長していく姿を見てきました。湖南省だけのブランド野菜を考えると、現状的には出て来ていません。

司会者： その違いは何でしょうか。

参加者： 兼業で農家をされているかたが多いというのがあるとは思いますが。水口には専業でしているかたがおられます。

司会者： ○○さんは将来的には法人化されるのでしょうか。

参加者： 法人化したいです。湖南省はライバルが少ないですので、ブランド化すれば大きいと思います。「湖南省といえばこれ」というものを開発できればいいと思います。それを使ってお菓子を作るなど、他の仕事にも発展させれば、新たな雇用の創出にもなります。

司会者： TIK 農産さんはすでに法人化されていますが。

参加者： ○○さんが言われたのは、すべて私が通って来た道のりです。最初は金がない。私は学生の時に JA の会議室に呼び出されて、借金をさせてもらって、まだ自分の印鑑が無かったので母印で。その時、「お前の肩には 1000 万円がかかっている」と言われました。その借金を背負いながら法人化して、会社を始めました。農業がプラスから入ることはまずあり得ませんし、まず資材を使いますから、何十万と資材に支払います。そしてようやく秋に収穫され、物が獲れてからお金が入ってきます。農業の場合、1 年目は借金というのは当たり前の話です。

ここに来られている皆さんは企業で働いておられますから、農業が企業であつてはいけないという縛りもないと思います。湖南省も営農組合が法人化していき、年寄りばかりではありますが、地域を守ろうという流れにはなっています。その中で JA がアドバイスや指導を行い、同じ米でもどのような品種を作ればいいのかを考えてきました。米と一言で言ってもいろいろな種類の米があります。

皆さんのイメージでは、一番おいしい米と言えば魚沼産のものを思い浮かべると思いますが、実際は違います。食味を数値化し、どうすればうまく感じる米ができるかということをいろいろな人が調べています。自分でも努力していかないと、農業では食べていけませんし、付加価値を付けることはできません。

昨年初めて、食味値にこだわった米でコンテストに出ましたが、滋賀県で一番高い食味値をいただきました。それを自信にしていろいろな所に営業に回り、今年の契約をいただきました。年間 9 トンを卸して、それが生活のベースになっています。

農業でも儲けないと意味がありません。文句を言っても、自分が借金をして苦しんでも誰も助けてくれません。

先ほど福祉の話が出ていましたが、うちでも石部作業所に収穫を手伝ってもらっています。玉ねぎの収穫などでも 1 日で終わります。そして収穫されたにんにくなどを作業所に持って帰って、選別してもらっています。それでも利益が出ます。

参加者： 企業と大学のマッチング支援についてですが、龍谷大学が今年 4 月に農学部を開設しました。そのバックアップや受け入れ先として、JA こうか管内でも支援してほしいという話がありまして、うちの会社も 1～2 年前から受け入れの契約を交わしています。JA こうかですので、甲賀市はそういうのに敏感に反応するのですが、湖南省には情報が回ってきていません。そういった部分で JA と湖南省の間でもう少し意思疎通があれば、もう少し農業も発展するように思います。

参加者： 龍谷大学とは産学連携をやっているのです、口は利けます。

司会者： 龍谷大学の学生には、将来、卒業して湖南省で農業をやりたいという思いはありますか。

参加者： そういうかたもいるでしょう。ただ農学部を出たからといって、必ずしも農家を継ぐとは限りません。農業をしている人は、全国的には農業系の大学・学部以外を出た人のかたが多いようです。

参加者： 家が農業をしている人は、絶対に継ごうという強い意志を持っている人は別として、実際にはやりたくないのです。

参加者： これだけアイデアがあるので、横につないでいく仕事を考えた方がいいですね。情報交換やブランドづくりをすとか。せつかくこれだけの人材が地域にいて、それをただ単に個別にそれぞれが頑張っって汗をかいているのではもったいない。

司会者： 若者・女性の雇用確保というテーマと、求職活動の支援というところで、雇用主の話を伺いたと思います。

参加者： うちの会社で最近始めたのは、学生向けの説明会に参加することです。初めて参加したのは、滋賀県内の企業が集まっって行っ説明会でしたが、そういった情報を学生が入手する機会が少ないように感じました。

説明会で学生の話をお聞いていると、地元で働きたいという学生は結構いるのですが、企業が何をやっているかというのをお知る機会が少ないようです。そこで会社の方で考えたのは、会社が学校に訪問して、学生にアピールや説明をさせていただく場を設けることです。

司会者： 毎年、大学生の採用はされているのですか。

参加者： ここ2～3年です。うちは運送業ですが、運送業がやりたいと積極的に思っってくれる人がなかなかありませんので、その辺りの苦勞はしています。女性の希望者は事務方がほとんどで、運転手の希望者は少ないです。インターンシップはしていませんが、希望者に対しては会社に直接来ていただいて、いろんな部署を回っって説明しています。

司会者： ダイハツ工業さんにはたくさん社員が来られていると思いますが、全国から来られているのでしょうか。

参加者： 九州・四国・中国からが多く、大阪からも来ています。湖南省からも多いです。

参加者： ダイハツ工業では車を製造していますが、将来製造してくれる人が少なくなっていくと考えています。なぜなら、会社まで来てもらうのが大変で、時間もコストも掛かります。そこで子育て支援の必要なかたがおられる場所に出張所を建てて、簡単な組み立てをして、会社に納めてもらうというやり方を始めました。この辺りでは、人口の多い守山市に拠点を一つ置いています。8割方は女性です。そこで組み立てした物を工場までトラックで運び、納入する形です。

参加者： パートさんでも働く時間帯を選んで組んでいますので、子育て中の女性でも働ける条件にはなっています。湖南省にもそういうところがあればいいと思います。

参加者： 女の人は、本当は働きたいけれども働く場所がないと言っています。

参加者： 農業ではウェルカムです。女性は果物とかをやりたいようですが、私たちは野菜です。

参加者： 玉ねぎばかりだと怒られますね。

参加者： だから、おばあちゃんにお願いするのですが、おばあちゃんは喜んで来てくれます。私は若い子で、「子どもが熱を出した」「急に帰らなくてはいけない」という奥様方をぜひとも雇いたいです。TIK 農産でずっとパートで来ていただいている人は甲賀から 40 分掛けて来ていますが、3時になったら帰っていきます。

参加者： そういう情報はどうやって周知しておられますか。ハローワークに出すしかないのでしょうか。

参加者： 働きたい人は情報がないといい、雇用したい人は情報を発信できないという。プラットフォームを使えばいいと思います。

参加者： うちが作業所さんにお問い合わせすると、数日前に何日間来てほしいと伝えておくと、来てもらえます。そういう融通が利きます。

参加者：ここにコワーキングスペースと書いてありますが、うちの近所でコワーキングをしている人たちがばかりが集まっているので、一度行きたいと思っています。そういうところにホワイトボードなどに、「この日仕事あります」みたいなことが書けたらいいなと思います。

参加者：図書館はどうでしょうか。

司会者：図書館でそういう情報を流すのは、考えられなくもありません。そういう情報をいかにマッチングさせていくかは、非常に大事なポイントです。

司会者：福祉施設についてですが、これから高齢者が増えていく中で、福祉施設で働く人たちの雇用について改善すべき点はありますか。

参加者：雇用面で言えば、介護だったら応募したら採ってもらえるのではないかというイメージがあるようで、人は来ます。でも、たとえ採用をしても内容を分かっていない人だと、すぐに辞めてしまいます。そういう意味で離職率が高いのではないかと思います。介護という仕事の内容をしっかりと知っていただいた上でやっていただけたら、それほど離職は多くならないと思います。実際に今働いておられるパートさんで12年以上働いている方はおられます。通常、女性が多い企業では男性が少ないのですが、今働いている男性で5年以上働いているかたが2名います。

今、大学のボランティアセンターに登録して、学生に実際に来ていただいて体験してもらっています。こうしてボランティアで来ていただいた人の中から、雇用に関わったケースもあります。

ニュースもそうですが、市の方でも介護施設に対して暗いイメージを出しがちです。そればかり出してしまうと「介護は良いものではない」「働きたくない」という方につながります。介護にやりがいを感じて長く働いている人もいますので、情報発信に少し偏りがあると思っています。その是正は私たちがしていかなければいけないのですが、そこら辺も留意していただけたらと思います。

司会者：介護の現場は女性が多いと聞いていますが、たとえば子育ての最中のかたもおられれば、子育てを卒業されたかたもおられると思いますが、その辺りの待遇はどうなっていますか。子育て中のかたは、土日は休みがほしいという希望もあるでしょうし。

参加者：うちに限って言えば、皆さんでバランス良く協力して休みを取ってもらって

ます。

もちろん土曜日に子どもがおられるかたは、ずっと土曜日に休んでおられますし、それ以外のかたが代わりに土曜日に入っています。何かあれば相談して、子どもがいても土曜日に出て来てもらったりしています。女性が多いので、そこはお互いに話し合って調整してもらっています。

司会者： 日曜日の広告に入っているような求人情報では、福祉施設の求人が多いと思うのですが、あれを出すと求人は来るのでしょうか。

参加者： 時期によります。全く来ないわけではありません。

司会者： 商工会さんの方かたは、こういう雇用の面などはどうですか。

参加者： 商工会は自分たちが雇用するのではなく、事業主を見ているだけですが、女性の事業主はやはり少ないです。ただし少ない分、ポテンシャルがあるように思います。

参加者： 女性は起業したいと思っても、湖南省ではやらず、大津とか草津でやります。だから、そういうポテンシャルの高い人に今後いかに湖南省で起業していただくかですね。

参加者： 湖南省で今事業を始める人は、住んでいる人か、本当に好きな人しかいません。

参加者： それはなぜなのでしょうかね。

司会者： ○○さんが先ほど、周りに働きたい人を探してくれる女性のかたがおられると言っておられましたが、その人たちは働くのではなく、起業することはないのでしょうか。

参加者： やはり単独では難しいようです。たとえば自分が、ネイルができるというのであれば、他の人と共同起業して、自分はネイルをして、その人は別の事業をするといった形でなければ。

参加者： 大津に「女性の起業を応援する会」というのがありますが、ここには京都周辺の人を中心に、月1回、土曜日朝9時から20～30人、いろんな商売をしている人や、これから起こそうという人たちが集まっています。そうとう意欲のある人で

す。ここで自分がどういう仕事をしているかというプレゼンテーションを行っています。女性起業家たちは励まされたり、自分の仕事の可能性を見つけたり、マッチングをすることもできます。こういう場を湖南省の中に作れたらいいのですが、それにはリーダーの存在が必要です。いるはずですが、見つけれない。そこが問題です。

参加者： 湖南省でも女性の起業のスタートアップセミナーなどもやれば良いと思います。

参加者： スタートアップカフェなどは、お茶菓子を食べながら気軽に起業について話すとか講師の話聞くというのがあります。うちの方でも講師を派遣しています。湖南省でも話ができれば、協力いたします。

参加者： 子育て世代のお母さんたちは、子どもを安心して預けられる施設が充実していれば働けるのではないかと思います。うちに来られている人の場合も、子どもが心配だからといって働く時間が限られています。

学童保育にしても料金が高いですし、これだけまちづくりセンターがたくさんあるのであれば、放課後、子どもたちが集まれるように開放すれば、お母さんの世代が働く時間も融通が利くのではないかと思います。小学生の場合、預ける所は学童保育ぐらいしかありませんので、市の施設を有効活用すれば良いと思います。

司会者： 地域で預かってもらえるような場所ですね。まちづくり協議会がいろいろ取り組んでいるので、そういう活動があれば良いと思います。

参加者： 今の意見では、学童保育の意味がなくなってしまうと思います。同じようなことを低料金で市がバックアップしてやるとなると。

司会者： 同じ条件ではないと思います。まちづくりセンターの場合は、5時で閉まりますし。学童なら、もっと遅くまで子どもを預かってくれると思います。そうやって子どもを安心して預けられるシステムがいくつもできれば良いと思います。

貴重なご意見、ありがとうございました。